**新型コロナウイルス感染症における**

**ソフトボール活動の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン**

**１・公式試合（予選会含む）および各種事業再開のための共通留意事項**

(1) 三つの密（密閉、密集、密接）の発生が原則想定されないこと（人と人との間隔はできるだけ２ｍを目安に）

(2) 大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと

(3) その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること

※これまで集団感染が確認された場では、共通する３つの条件（①換気の悪い密閉空

間、②人が密集している、③近距離での会話や発声が行われる）が確認されています。

また、これ以外の場であっても、人混みや近距離での会話、特に大きな声を出すこと

や歌うことにはリスクが存在すると考えられています。激しい呼気や大きな声を伴う

運動についても感染リスクがある可能性が指摘されています。

(4) 事業を開催する自治体の方針に従うことを前提とする

(5) 参加者全員へ本ガイドラインの周知徹底を図ること

(6) 事業関係者から感染者が出た場合の競技団体の責務の重大性を考え、チーム関係者、 役員・スタッフ一同および事業参加者で感染拡大防止のためのガイドラインを遵守す

ることを徹底する

(7) 会場への関係者の移動は、極力、公共交通機関を利用しないこと

(8) 大会を開催する場合は、監督会議、開会式、閉会式、懇親会およびファンサービスなど人が密集するイベントは実施しない

(9) 各種会議など室内で実施する場合は、こまめな換気をし、会場への入退室時の消毒を徹底する

※事務連絡などがある場合には、事前に参加チーム連絡責任者にメール等で周知する

(10) 参加者（選手およびチーム関係者、その他各種事業の参加者）に疑い例が出た場合

① 大会や各種事業の開催期間中に、検温で 37.5 度以上の発熱があった場合は必ず主 催者に報告する

② 37.5 度以上の発熱が 2 日間以上持続した場合は、発熱のあるものを大会または各 種事業から隔離する

a) 所属先および医療機関への連絡

b) 濃厚接触者の抽出

c) ＰＣＲ検査および医療機関受診対象者の確認

③ 陽性反応が出た場合の対応

a) 感染者本人は入院もしくは自宅療養（医療機関の指示に従う）

b) 濃厚接触者も自宅待機（医療機関の指示に従う）

c) 以降の大会開催方法について即刻、協議を行う

(11) 　参加者に対して、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策のため情報提供（別紙「連 絡先および健康状態申告のお願い」）をお願いする。記入した申告書については、公式試合および各種事業の参加時に持参し、主催者に提出すること。なお、提出された個人情報の取り扱いには十分配慮する。

**２・公式試合（予選会含む）再開のための留意事項**

1. 大会関係者（参加チーム、競技役員、運営スタッフ、メディアなど）への対応
2. 入場制限

a)競技運営に直接携わらない関係者の来場を控える

b)来賓の方の入場は遠慮してもらう

c)運営スタッフ（審判員、記録員含む）の人数についても、必要最低限に止める

d)チーム関係者の来場人数についても、ベンチ入りメンバー以外を最小限に止める

e)無観客の場合は観客席入口を施錠し、関係者以外が立ち入りできないようにする

1. 体調管理 参加当日の朝に体調不良（発熱、倦怠感など）である関係者は、来場を禁止する
2. 感染予防

a) マスク着用の徹底（プレー中の選手は例外）

b) 入場の際に消毒液での手洗いを徹底する（各所に消毒液を設置）

c) 球場の各諸室（トイレ、ロッカールームを含む）は、換気のため密閉を避ける

d) 施設側と協力して、各諸室の消毒を徹底する

e) 諸室内での運営関係者間の距離は、できるだけ 2ｍ（最低 1ｍ）を保つ

f) 会場への移動は、原則バスや車移動とし車内の換気を徹底する

g) タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける h) 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人はマスクや手袋をし、マスクや手袋を外した後は必ず手指消毒をする

1. メディア取材対応 別途、取材マニュアルを作成し遵守させる
2. 観戦者への対応
3. 観戦者に発熱（37.5 度以上）、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状が見られる場合には 観戦を遠慮してもらう※ホームページ等で事前告知すること
4. マスク着用の呼びかけを行う
5. 球場への入口等に消毒液を設置
6. 観戦者（家族を除く）に間隔（1 席空ける）を空けての観戦をしてもらう
7. 応援方法については、以下の行為を禁止する

a) 肩組み、飛び跳ねなど集団での動きを伴う応援（接触感染リスク）

b) 立ったり座ったりを繰り返す集団での動きを伴う応援（接触感染リスク）

c) 太鼓、トランペット等の楽器での鳴り物応援（飛沫感染リスク）

d) メガホン、スティックバルーンを使用しての応援（飛沫感染リスク）

e) 大声を出しての応援（飛沫感染リスク）

f) フラッグや応援タオルを振り回す応援（飛沫、接触感染リスク）

1. 球場内外での飲食物の販売については球場管理者と相談
2. 喫煙所を設置する場合は「三つの密」を避ける措置を施す
3. 競技上（練習含む）の留意点
4. バット、ヘルメット、グローブ、打撃用手袋、ロジンバッグなどは各選手が使用し、 可能な限り他の選手との共用を回避するように努め、共用せざるを得ない用具については、こまめに消毒を行う
5. 唾を吐く行為を禁止する
6. 選手、特に投手は指を舐めてはいけない
7. 握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグなどの身体的接触を避ける
8. グラウンドレベルでの円陣は控える
9. ベンチ内での選手間の距離は、できるだけ 2ｍ（最低１m）確保する
10. ベンチ内には消毒液を設置する
11. ベンチ内から声援や指示を出す場合は、対人距離に注意する
12. 試合前の打順表最終確認の際は、可能な限りお互いの距離を取り、監督、審判の握 手は行わない
13. 球審・審判員はマスクを着用する
14. 球審は捕手に触れてはいけない
15. 監督、コーチが審判に近づく際は最低２ｍの距離を保つ
16. 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、 その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする
17. タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける
18. その他の対応 大会関係者より感染者が発生した場合は、直ちにホームページ等で情報開示する

**３・ 各種事業再開のための留意事項**

1. 各種事業の開催に向けて準備するもの
2. 各会場の入口 ポンプ式の消毒液（70％アルコール（エタノール）などを設置する
3. 手洗い場所・洗面所（トイレ）・手洗い場所には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する

・「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする

・参加者には自身のハンカチを持参することを求める

③主催者は、事業の開催要項など作成の際は、参加者に対し、下記事項を告知して当日の感染予防策を講じる

a) 事業当日に体調がよくない場合（例：発熱、咳、倦怠感、味覚障害などの自覚症状がある場合）

b) 同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染者や感染が疑われる方がいる場 合

c) 過去 2 週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地 域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

d) 事業当日から 2 週間前までに発熱、咳、倦怠感など自覚症状があった場合

※上記の事項に該当する場合は当日の参加の見合わせを求めること

※当日の問い合わせのための担当者および連絡先を明確に記載する

※マスクを持参すること

1. 移動時の感染予防策 施設（会場）への移動時、公共交通機関を利用の際は、口元、 鼻を含む顔面へ手を向ける前に消毒もしくは手洗い（石鹸・ハンドソープ（30 秒

以上））をする

1. 施設（会場）での感染予防策

a) 施設（会場）入口には消毒液を設置する

b) 手洗い場所・洗面所（トイレ）で石鹸・ハンドソープを用意すること

c) 手洗いの際には、30 秒以上することの周知すること

d) 参加者は自身のハンカチを持参すること

e) 屋内・屋外にかかわらず大きな声を出さず、ソーシャルディスタンス（２ｍ程度） を配慮し感染防止に配慮すること

f) 握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグなどの身体的接触を避け、タオルや飲料は自分専用のものを持参すること

1. 受付時の感染予防策

a) 受付担当者は、必ず消毒をして、マスク着用をする

b) 受付担当者は、前日または当日、発熱、倦怠感、味覚臭覚障害などの自覚症状が

ある方は担当を交代するなど配慮する

c) 人と人が対面することが想定される場合には、感染予防策を講じる

d) すべての参加者から情報提供（別紙「連絡先および健康状態申告のお願い」 ）の提出をお願いする